2012 年度
社会医学研究会
活動報告

Vol.6

2012 年度　新顧問からのメッセージ

本年度から、古家　仁先生の後任奈良県立医科大学社会医学研究会の顧問をさせていただいております小児科の嶋です。社医研は歴史も古く伝統のある部であり、非常に名誉なことと思っています。古家先生が顧問となられてからこの約１０年間の間に、様々なボランティア活動に加えて、東洋医学、緩和医療、ぬいぐるみ病院など社医研の活動範囲がどんどんと広がっております。また、IFMSA を通じて国際的な交流活動も積極的に実施していることは実に喜ばしいことであります。他のクラブとは比較にならないほどの圧倒的な部員数を誇り、奈良医大社医研は奈良医大の中でも大きな存在感を示しています。さらに、うれしいことは、部員のみなさんは非常に高いモチベーションと向学心、そして　社会に貢献したいという志を持っており、将来有望な部員ばかりであるということです。現在、たくさんの活動がありますが、初心を忘れず、是非最後まで継続していただきたいと思います。学生の６年間は非常に重要な時期と思っています。もちろん、医師になるために医学を勉強するのが本業でありますが、学生の間に様々な医療の現場に目を向け、問題意識を持って活動することはみなさんが卒業して医師として成長していく過程できっと大きなエネルギーの源となると思います。

わたくしは小児科医ですので小児科の例を考えてみましょう。小児科医は疾患を治療するだけではありません。子供の発達や家族への支援、そして、教育、保健、医療政策、福祉など実に様々な領域が関連してきます。常に広い視野が必要だと思います。他の科も同様だと思います。社医研の活動を通じてぜひとも医療の広い世界を体験し、そしてみなさんができることをみんなで考えて実践してください。受け身ではなく、みなさん自ら動き出すこと、これが一番重要なことだと思います。あと、国際的視野もぜひ持ってください。海外の医学生のレベルは非常に高いです。また、語学力や英語で討論する力は、残念ながら日本人をはるかに上回っています。これから、日本はそれぞれの領域で国際的にもどんどんアピールできることが必要だと思います。

最後に、６年間、最後まで、社医研の活動を最後まで続けた６回生のみなさんに敬意を表したいと思います。これまでの活動はみなさんの大きな力となっています。医師になってからもその積極性を失わず、常にトライの精神でがんばってほしいと思います。また、これからは社医研 OB として支援いただきたいと思います。

奈良県立医科大学
小児科学教室
教授　嶋　緑倫

AMSA Japan 活動報告書

医学科 ３年　阪田武

AMSA（アジア医学生連絡協議会、Asian Medical Students' Association）は 1985 年に正式に発足され、現在では 22 の国・地域（オーストラリア、バングラデッシュ、カンボジア、香港、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ネパール、パキスタン、フィリピン、台湾、タイ、パプアニューギニア、イギリス、中国、ネパール、モンゴル、ニュージーランド、トルコ etc.）が参加しています。アジア各国の医学生と共にアジアの保健医療の向上を目指し、ヒューマンネットワークを作りあげていくことを目標としています。AMSA の日本支部が AMSA Japan となり、国際会議への参加の他に国内での活動も行っています。

昨年の 10 月から 1 年間で行われた AMSA Japan の主な活動を紹介します。

11 月 12・13 日(土・日)　秋の国内交流会 in 神戸

神戸において、「災害医療」をテーマに国内の交流会を 1 泊 2 日で開催しました。日本各地から 49 名が神戸に集い、1 日目は AMDA 神戸支部の支部長江口貴博先生に講演をいただき、人と防災未来センターを見学し、神戸観光もしました。2 日目には東京からの法学生も交えて討論を行い、鷹取町の案内していただきました。

1 月 15～20 日　東アジア医学生会議 in Singapore

東アジア医学生会議は AMSA が行う年に 2 回の大きな会議のうち冬に行われるものです。今回はシンガポールにおいて「Infectious Diseases: Battling the Enemy on All Fronts」をテーマに行われました。日本からは 19 名が参加し、6 日間に渡ってテーマについての講演を聞いたり、ディスカッション、ワークショップをしたり、さらに、観光や文化交流を行いました。

3 月 24・25 日(土・日)　AMSA 会

AMSA 会は毎年京都において開催されている AMSA Japan 最大のイベントです。AMSA Japan の一年間の活動総括と報告のほかに OBOG の先生から講演をしてもらったり、3 月で卒業される先輩から発表してもらったりしました。

4 月・5 月　新歓

今年度は関東、関西、中国、九州で新歓を開催しました。たくさんのニューカマーに参加していただき、AMSA Japan のメンバーも増えました。関東・中国では外部から講師をお招きして講演会も開催しました。

6月16・17日(土・日) 春の国内交流会 in 東北

秋の国内交流会に引き続き、今年度 2 回目となる国内交流会は東北大学が主幹となって「医療×情報」をテーマに開催されました。2 名の先生方による講演と、twitter, facebook の活用方法やプレゼンのスキルアップをしつつ、バーベキュー、花火、深夜バスケ、温泉、ほぼ徹夜の飲み会などお楽しみ要素もかなり盛りだくさんでした。

7月8～14日　アジア医学生会議 in Philippines

アジア医学生会議は AMSA が行う年に 2 回の国際会議のうち夏に行われるものです。今回は「Surmounting Health Inequalities in Asia as One Region」をテーマにフィリピンで開催されました。日本からは 24 名が参加し、冬の国際会議同様、学術交流、文化交流、現地の地域学習を行いました。学術ポスターのコンペでは、日本は国民皆保険制度の今後の課題についてまとめ、2 位を獲得しました。また、論文のコンペでは、先進国の日本に存在する健康格差について発表し、3 位を獲得しました。

IFMSA-JAPANでの活動

医学科３年 岩倉真也

僕は、IFMSA-Japan の Training Office という部門を務めさせて頂いております。名前だけでは、非常に分かりづらいのですが、この部門は、training という、work shop を受けて頂く事で、Presentation skills、Communication など、日常の生活で必ず役に立つスキルの向上を狙うものであります。特徴としては、まず第一に楽しく！体を使って！実践的に！両方向性！と、一般的な講義形式のものとは、全く違うかたちでの work shop を行っております。

Training Office は、毎年１回、夏に TNT～Training for New Trainers～というものを行っております。今回、トレーナーをもっと増やしたいと思いまして、関西と、関東、の２本立てで TNT を行いました。

この TNT、実は、大変ハードなスケジュールになっています。３日間、ほぼ、寝るときと、休憩以外、そのスケジュールに当てられているという、半ばクレイジーなイベントです。しかも、最終日は、ほとんど寝る時間もないという、とどめを刺してくれます。

ですが、その内容は、それをスタッフとして行う自分から言うのも恐縮ですが、大変中身の濃い内容になっております。去年、僕自身も受けたときに、そう思いました。

正直、関西の TNT の３日間、そのすぐ後、関東 TNT の３日間、非常にハードでしたが、その分、参加者が、素晴らしいトレーナーになってくれた事が、本当に嬉しかったです。

話は、変わりまして、IFMSA-Japan には、NGA という、国内最大イベントが、今月１１月の 23~25 日、東京オリンピックセンターで行われます。IFMSA、には、５つの部署があります。それぞれが、１年間の集大成を NGA で魅せる為に、本気でつくっているので、本当に刺激的で、魅力的なイベントが毎年盛りだくさんなのです。今年は、募集を締め切っているので、見逃した人は、また、来年是非とも申し込んで頂きたいと強く願っております。

実は、Training Office も NGA3 日目に training を行います！training に取っては、この舞台が、大本番なのであり、New Trainers にとっては、初舞台となります。いらっしゃる方は、楽しみにしていてください。僕しかり、New Trainers も、楽しく、かつ、為になるような training をつくります！

みのむしの会

医学科４年　西村信城

みのむしの会は発達障害を持つお子さんとその家族のための会です。月に一回、生駒市の福祉施設に集まって活動しています。集まるのはさまざまな人で、障害を持つお子さんとその家族の方はもちろん、養護学校の先生、小児科の先生、動作法の先生、訪問看護師、学生など他職種の人が集まります。学生は奈良医大の学生に加え奈良女子大学のわかたけ会の学生も来てくれています。活動内容は家族の方がお互いに話をしたり、先生に子供のことで相談したりしています。学生は子供たちと遊んだり、家族の方の話を聞いたりしています。

みのむしの会での僕の楽しみは子供たちと遊べることです。初めは人見知りであまり遊んでくれなかったりする子供達が何回も行くうちに慣れてきてくれるのはとてもうれしく感じました。しかも、子供たちの成長は早く１か月も会わないとすぐ大きくなって、前までしゃべれてなかった子がしゃべれるようになっていることに驚き、感動したりします。そして、教科書には載ってない、さまざまな発達障害の子供達の困ったことや事実を知ることができる、というのも楽しみの一つです。例えば、ダウン症の子は歯がばらばらに生えてくるので歯並びが悪いことが多い、ということをこの前知りました。子供達は可愛く、ついつい障害のことなど忘れて遊んでいる中でもそういった、取るに足らないことかもしれませんが、近くにいることでわかる、そんな小さな発見ができる事が嬉しかったです。

そのようなみのむしで僕が一番良かったと感じられたのはやはり、みのむしキャンプでした。みのむしの会では毎年夏休みの終わり頃に一泊二日のキャンプをします。そこでは他人の子供をお風呂に入れるという普通ではできない体験ができます。たったそれだけと思うかもしれませんが、これによって子供達とより仲良くなれた気がしました。また、夜の飲み会は毎年違った形の飲み会になるといわれ、普段のみのむしの会以上の深い悩みを聞けたりします。

みのむしの会で感じることや学びたいことは、それぞれの学生によって違うと思いますが、みのむしの会で子供たちやご家族の方や先生方と関わらせていただくことで、様々なことを学ぶことができると思います。

てくてくの会
（病気・障がい児の地域生活を支える会
『てくてく』）

医学科４年　畑中　彩李

　てくてくの会とは？
こどもはこどもの中で育つ、人は地域の中で支えあっていくと考え、誰もが安心し、充実した生活を送ることの出来る地域での生活を目指しています。その考えの下、京都府木津川市の地域で主に第４日曜日にてくてくの会は開かれています。障害の有無に関わらず集まったお子さんとそのご家族が、音楽療法(音楽を通して体を動かす)というものを通して遊び、楽しく活動しています。学生は会の参加、会の設営等をしています。また、ご両親がスタッフと子育てに関する相談をしている間、子供達とおもいきり遊んでいます。

　私はてくてくに行き始めて４年程経ちますが、毎回行く度にたくさんの事を学ばせていただいています。まず、子供の成長が目に見えてわかることです。つかまり立ちをしていた子が私の前でふと初めてつかまらず歩く事が出来た事には驚きました。他にも一カ月の間で身長が伸びている気がしたり、兄弟を思いやる言動が増えたり。ほっこりするような気持ちになります。また、子供の表情の変化や振る舞いから、今どんな気持ちで何を訴えようとしているのかを考えるようになりました。『今、私はこの子の気持ちをくみ取れているのかな』と、不安は今でもありますが、いつも意識しようと思います。一方で、ご両親の子育ての不安も垣間見ることができます。医療人では気づきにくい、ご両親だからこそ気づく意見が多く、それは医療人になってから活かせることと思います。会終了後、スタッフ陣で次回のてくてくの会の企画を練るのですが、そこでも子供やご家族に対する細かな配慮がスタッフ陣によりなされ、大変勉強になっています。

　また、今年は奈良女子大学のサークル”わかたけの会”と交流を深め、お互いの活動に参加していました。目的や対象はてくてくと似ているのですが、子供たちへのアプローチの方法が全く違い、勉強になっています。

　発達障害というと、ダウン症、自閉症、アスペルガー症候群など難しい事をイメージし、『正直、発達障害を抱えた人とどう接していいかわからない・・』と思うかもしれません。そんな壁を低くするために、昨年は社医研 OB の方の力をお借りしてみのむしの会に参加しているメンバーと合同で発達障害の勉強会をやっておりましたが、今年はできませんでした。方向性を考えてまた実施できればと思っています。

　まだまだ悩みや課題は多いのですが、参加する度に笑顔いっぱいではしゃいだり怒ったりする子供達が楽しみで参加しています。てくてくに興味のある方はまず是非参加してみてください^^♪

ホスピスボランティア

医学科４年　橋口康弘

ホスピスボランティアは社会医学研究会の一分会として田原本にある国保中央病院の緩和ケアホーム『飛鳥』にてボランティア活動を行なっています。ホスピスとは治癒を目的とした治療が困難となった患者さんの身体的・精神的苦痛を和らげ、残された時間を有意義に、また尊厳をもって過ごせるようにすることを目的につくられています。一般病棟とは違い、ホスピスには患者さんがリラックスして過ごせるような工夫が随所に見られます。病室をはじめ、廊下やリビングルームは暖かい印象を受ける暖色系で統一され、催し物などができるリビングルーム、一人で物思いに耽る瞑想室、家族の方が泊まるための家族室などがあります。１階には大きな庭があり、ご家族の方と散歩などもできるようになっています。また、病室からはのどかな田園風景を臨むことができます。

私たち学生ボランティアは少しでもホスピスという場所が患者さんにとって癒しの場所となればと思い活動させていただいています。活動内容は、リビングルームの巨大な窓に季節ごとの飾りつけをしたり、患者さんやそのご家族にハーブティーを提供したりしています。夏にはスイカやかき氷、秋にはハロウィンやお月見、冬にはクリスマスや雪だるま、春には桜やひな祭りなどの飾りつけをします。リビングにこられた患者さんやご家族の方に『この飾り付けには心が癒される。』『上手だね。』などと言っていただくこともあり、励みになっています。中には、一緒に飾りつけを作っていただいた方もいらっしゃいました。また、ハーブティを召し上がっていただいた方の中には、『アンズは私の故郷の長野でよく採れたのよ。まさか、奈良の病院でアンズのお茶をいただけるなんて、とても嬉しい。』と言っていただいた方もいました。時には、自分がホスピスに入所するまでの経緯や病状、身の上話をして下さる方もいます。最後にはみなさんが『いいお医者さん、看護師さんになりや。』と言ってくださいます。今年は、夏祭りに呼んでいただき、楽しませて頂きました。来年は学生の出し物ができればいいなと密かに考えています。

ホスピスに行くとこんな風に患者さんやそのご家族の方、また、そこで働いておられる方々とお話をさせていただく機会を持つことができます。ボランティアという名のもとに活動してはいますが、将来医療人になる私たちにとって、その中で得るものは大きく、勉強させてもらっていると言った方が正確かもしれません。

医療者は患者さんと同じ気持ちになることはできません。どうあがいても患者さんの気持ちはその本人にしか分かるものではないでしょう。ですが、患者さんの話を聞くことで、患者さんがどのような心境にいるのかということは理解出来ます。そうすることで、少しでも患者さんの心に寄り添える医療人なれればと考え、私は参加しています。

現在、ホスピスボランティアは月に１～２回のペースで行なっています。事前に参加希望者の予定を聞き、それに合わせて日程を組んでいます。興味のある方は、是非気軽に参加していただければと思います。

手話の会

医学科４年　橋本彩

今年度、手話の会は週１回(現在は金曜日)のお昼休み、一般教養校舎３講にて、お昼を頂きながら実施しています。

簡単な会話が手話で出来ること、医療現場で使える手話を知ることを目標に、指文字や挨拶、自己紹介などから始め、簡単な動詞や形容詞と少しずつ色々な手話を学んで来ました。５月からの週１回の限られた時間の中ではありますが。お互いに出し合いっこした手話クイズに答えられるようになったり、手話の使われているドラマで字幕を見なくても会話の内容が分かった！と教えて下さったり、最近では皆、徐々に“おしゃべり”が出来るようになってきた様に感じます。私自身も手話を勉強するのは初めてでしたが、こうして少しずつ分かることばが増えていくのはとても楽しいです。また医学科、看護科の１年生から５年生までの方々に参加して頂いており、科や学年を越えて、手話のお話だけでなく、学生生活やその他の色々なことについてもお話できるよい機会ともなっているように思います。

現在、日本手話の母語話者は６万人ともいわれています。私たちは近い将来、看護師や医師、医療者としてお仕事をしていく上で、手話を使われている患者さんと接する機会もあるでしょう。そんなとき、簡単なお話が手話で出来るだけで、出来ないよりはほんの少し、患者さんの心に寄り添えるのでは？と思うのです。今は学内でお昼休み、学生同士で行っていますが、いずれ学外で実施されている手話サークルや実際に手話を使っておられる方々との交流会にも参加していければと考えています。

手話に少しでも興味をお持ち下さった方、またお昼をご一緒してもいいなぁという方、是非一度、気軽にいらしてみて下さい(^^)♪毎回、復習をしながらのんびりと進めていますし、最近新しく参加して下さっている方もいるので、初心者の方も大歓迎です♡

ぬいぐるみ病院

医学科２年 大西里奈

ぬいぐるみ病院とは、子どもたちがぬいぐるみのお父さん、お母さんとなり、私たち学生が医師、看護師となって診察ごっこをするものです。また、子どもたちに病気の予防について知ってもらうための劇も合わせて行います。
その目的は、子どもたちに医療を身近に感じてもらい、病院に対する恐怖心を軽減すること、そして自分の身体や健康、病気の予防などについて興味をもってもらうこと、などが挙げられます。また、私たち学生にとっても、子どもとのコミュニケーションの取り方を学ぶ良い機会となります。

今年度は９月３日に、ひかり保育園でぬいぐるみ病院を開催させていただきました。医師役、看護師役、受付、誘導係などそれぞれの役割に分かれ、テンポ良く診察ごっこを行えるようにしました。また今年は、「予防注射とお薬は大切！」というテーマで劇をしました。子どもが病院を嫌う大きな原因である予防注射と薬について、それらの大切さを劇という形で子どもたちに伝えることを目標として、劇の台本を作りました。全体の目標として、子どもたちにも、参加した学生にも楽しんでもらえることを目標としていました。終了後の学生からのアンケートでは、楽しかった、子どもたちも楽しんでいた、という声を頂きました。一方で、チームとして統率がとれていなかった場面があった、準備のときに自分の動きを把握できていなかった、などの反省点もみられたので、次回のぬいぐるみ病院に引き継いでいきます。また、来年度はもう少し早い時期に日程決めをしたいと思います。興味のある方は、是非参加してみてください！

花の家ボランティア

医学科３年　南里直実

花の家は橿原神宮前駅から徒歩 3 分の場所にあるデイサービス施設です。時間は火～土曜の 10 時から 16 時半頃なので、私たちは主に授業のない土曜日を中心に活動してきました。

花の家の活動は 2011 年３月から始まった、社医研としての新しい活動です。活動の開始には奈良県立医大 地域健康医学教室教授の車谷典男先生や当時橿原市役所 橿原市民協働課 課長補佐でいらした辰井保千代さんなど多くの方のご協力を頂きました。奈良県橿原市に建つ奈良県立医大に属するものとして、橿原市民と直接関わり合いを持ち、できれば助け合うことができるような活動をしたいというお二人の想いを、学生が引き継がせていただき形になったものです。

学生側としても、奈良県立医大に通っていても、橿原市民の方々と直接触れ合う場が少ないと感じている人がいました。花の家は、地域に根差した介護サービスを行っておられ、そこでの活動を通じて、地域の方と関わることが出来ます。

ボランティアでは、利用者であるおじいちゃんおばあちゃん方と一緒に、お話をしたり、ゲームをしたり、ご飯を食べたり、体操をしたり、歌を歌ったりしています。また、今年から認知症専門の施設が増設され、学生は、一般の方の施設に行くか、認知症専門の施設に行くかを毎回選びます。一般の方の施設では、麻雀を教えていただいたり、紙風船バレーで白熱したりしています。認知症専門の方の施設では、何回も同じお話を繰り返す、自称あわてん坊将軍のおばあちゃんがいるそうです。和やかな雰囲気の中で、リアルな介護の現場を体験させていただいています。

利用者の方とお話をする中で、昔の経験や、生活の中で困っていることなどを聞くことが出来ます。また、スタッフの方と利用者の方とのやりとりから、お年寄りの方とのコミュニケーションの取り方を少しずつ学んでいます。

花の家の所長の濱田しま子さんは、「継続して花の家に行くことで、利用者の方と信頼関係を築いていくことが大切で、そうして初めて上手にコミュニケーションをとることが出来る。将来、医師・看護師になった時に、患者さんとして来られたお年寄りの方と上手にお話をする練習をしてほしい。」と、おっしゃっていました。

このような機会に出会えたことは本当に素敵なことだと思います！こらからも継続して活動していきたいと思います（*^^*）

学祭

医学科２年 大西里奈

今年度の社医研は、学祭でワッフルの模擬店を出店しました。初めての試みで試行錯誤しながらの準備でしたが、先輩方がアドバイスをくださったり、低学年の方たちが積極的に参加してくださったりしたおかげで、無事本番を迎えることができました。ありがとうございました。

当日は、奈良医大の学生の方、先生方、そして一般のお客様にたくさん買っていただき、美味しいよ、という声をもらえてとても励みになりました。手伝ってくださった部員の方たちも、慣れない作業に戸惑いながらも、積極的に、楽しんで運営していただけたように感じました。

困ったことは、必要な用具や買い出しの量の検討がつかなかったことでした。運営の途中で材料や用具が足りなくなることが何度かありましたが、その度に買い出しに走ってくださった方がたくさんいて、なんとか対応することができました。今回必要だった材料、用具についてはきちんと引継ぎをしたいと思います。

社医研にはたくさんの部員さんがいらっしゃいますが、普段の活動範囲がそれぞれ違い、1つのグループであるという感覚がなかなか掴めない方もいるのではないかと思います。今回の学祭のように、普段会う機会の無い部員の方とも一緒に１つの模擬店を運営することで、「自分も社医研の部員なんだ」という感覚を少しでも感じてもらえたら嬉しいです。

あとがき

今年も６回目の部誌を発行するため、社医研の中で行われている活動の代表者の方にご執筆をお願い致しました。快くお引き受けいただき有難うございました。部の活動を記録し、代々歴史を伝えていく事は部を発展させる上で大事なことだと思います。

社医研の一番の魅力は、色々な人に出会えることだと思います。国際交流、障がいを持った子どもたちやその親、ホスピスの入院患者さん、お年寄りの方、保育園の子どもたち、市役所の職員さんなど、普段学生生活を送る中ではなかなか出会えない人たちとの出会いは、とても貴重なものだと思います。そして、今まで活動をしてこられ経験豊かな素敵な先輩方、忙しい中でも何かしてみたいと思って参加してくれる低学年の方たちと一緒に活動できることは、とても楽しく、元気をもらっています。他にもたくさんの魅力が社医研にはあると思いますが、そうした社医研の魅力を、少しでもたくさんの方と共有したいと思い、４月から、部長として、微力ながら部の運営に力を尽くしてきました。

今回の追いコンでは、医学科５名、看護科１名がご卒業されます。社医研という部活を大切にしていただいた尊敬できる先輩方です。私たち後輩は、歴代の先輩達が大事に引き継いでこられた社医研をしっかりと受け継ぎ、またいっそう社医研を盛り上げられるよう励んでいきたいと思います。

今年は、新入生が 52 名入部し、また、以前にあった手話の会が再開されました。さらに、たくさんの活動がある中で、自分が参加していない活動について知ってもらうため、また、普段会うことがほとんどない部員同士が交流する機会をつくるため、今年から月に１回の報告会を始め、各活動の様子を報告し合いました。それぞれの活動の魅力や問題点を共有することが出来る場になったので、これからも続けていきたいと思います。

社医研に入部したけれど、なかなか活動に参加できず、社医研から離れてしまっている人もおられると思います。そんな方は、まず、活動をされている方に、気軽に話を聞いてみてください。そして、もし興味をもたれたら、活動の様子を覗いてみてください。また、活動には参加できなくても、報告会や新歓・追いコンに参加して、部員の方と交流していただくだけでもいいと思います。無理せず、自分なりの社医研との関わり方を見つけてください。社医研を通じて、みなさんが、刺激的で楽しい学生生活を送られることを願っています。

最後に、社医研を運営するにあたって、嶋先生はじめ、OB・OG の方々、先輩方、副部長の阪田くん、同学の方、後輩のみなさん多くの方々に助けて頂き有難うございます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2012 年 11 月９日

南里　直実